

牛久：学校周辺に見る自然

第51号 みずべ公園（ひたち野うしく小）

2016年12月5日発行

く 秋の終わりに、そよかぜ学級とみずべ公園を歩く ④甲虫類(こうちゅうるい) >
11/17、ひたち野うしく小そよかぜ学級の皆さんと歩いた、秋の終わりのみずべ公園。今回はテントウムシやハムシのなかま。



星の数も色あいもいろいろな、ナミテントウ。もようは違っても同じ種（しゅ）。



コナラの葉に、いろいろなもようのナミテントウがいました。別の種類と思われがちですが、どれも同じ種類で、もようの違うものどうしでも交尾して子孫を残します。コナラには



他に、ナミテントウの幼虫やナナホシテントウのさなぎもたくさん見つけられましたね。

ナナホシテントウのさなぎ(左)と、ナミテントウの幼虫(右)。コナラの葉の上に、たくさん見られた。

ナミテントウは、イヌシデにもいました。幹の南側にジョロウグモの卵のうやヒロヘリアオイラガのまゆなどといっしょに見つけましたね。

シダレヤナギの下の石のイスにも、たくさんのテントウムシやハムシのなかまが見られました。



イヌシデの幹にいたナミテントウ(左)、シダレヤナギ下の石イスにいたナミテントウ(中)・ナナホシテントウ(右)幼虫。



中には、ナミテントウとアブラムシ、アリがそろって近くにいたイスもありました。テントウムシはアブラムシをえさとして食べ、アリはそのアブラムシから、甘い液をもらう。だからアリたちにとって、テントウムシは邪魔になります。それでアリは、テントウムシをいかくしたり追いはらおうとするのですね。

シダレヤナギの下の石のイスにいたナミテントウとアブラムシ、アリ。

ナミテントウ(成虫)とナナホシテントウ幼虫、ヤナギリハムシがいっしょにいたイスもありました。ヤナギは落葉が進み、まわりの草は刈られたばかりでしたので、それでこんなにたくさんの虫たちが見つかったのかもしれませんが、ヤナギリハムシだけで10頭ほど集まっていたイスもありました。



そして、学校への帰り道、街路樹のアキニレの幹にたくさんのナミテントウが集まっていました。さらによく見ると、その幼虫やさなぎも、同じ幹にたくさんいました。

校庭や街路樹、庭などでも、それぞれの場所にあったいろいろな昆虫が見られると思います。天気の良い暖かい日などは、部屋にこもってないで、観察して見ることをおすすめします。

どんなところにいたか？草の中か木の枝か、コンクリートの上か、南側か北側か向きに関係なくか、そして何をしていたか？動く速さは他の季節とくらべてどうかなど、気がついたことを日付や天気などとともに記録しておきましょう。 【理科支援員：宮内】



シダレヤナギ下の石イスにいっしょにいたナミテントウとナナホシテントウ幼虫、ヤナギリハムシ(上)。ヤナギリハムシ(中)。帰り道、アキニレの幹に集まっていたナミテントウの成虫、さなぎ、幼虫(下)。

